

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 国際交流の推進	② 施策番号	1301
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 市民すべてが平和を希求するとともに、互いの存在を尊重し信頼しあい、いかなる差別もなく、一人ひとりが大切にされる人権文化のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 国際交流・多文化共生の推進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
総合政策部	政策推進課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民及び市域を訪問し又は市域に住まう、外国語を用いる外国人
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	訪日外国人旅客と市民との簡単なコミュニケーションを可能とし、また、市在住の外国人住民が必要とする基本的な市行政情報を本国語で理解できるようにする。それを通じ、日本及び本市の理解を深め、国際友好を深める。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	現在、本市において、言語分野での国際化は遅れている。その一方、関空からのインバウンドが急増するものの、その流れを本市域にいざなうためには、国際化が急務といえる。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 行政情報誌他言語版配布部数 計算式	部	現在本市の情報他言語版で表現したものは数少なく、当該他言語版冊子が代表的なものであるため、その配布数を指標とすることは有効。
② 新規ホストファミリー登録者数 計算式	家庭	市民レベルでの国際交流は、市域全体のおもてなし精神底上げにつながるものであり、ホスト家庭の増加が外国人受け入れ機運の変化を表すため指標として有効。
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 行政情報誌他言語版配布部数	部	目標値	300	500	500	500	500	
		実績値	698	842		—	—	
		達成率	232.7%	168.4%	0.0%			
② 新規ホストファミリー登録者数	家庭	目標値	3	3	3	3	3	
		実績値	8	1	0	—	—	
		達成率	266.7%	33.3%	0.0%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	国際交流事業	新規ホストファミリー登録者数	家庭	1	0	1	161	81	81	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						161	81	81			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(実施中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	訪日・在日の外国人との交流を推進することで、国際交流の推進に直接的に貢献することに加え、新たな文化の発見・創造や、地域経済の活性化にもつながる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	他言語版冊子による情報提供は、今後も発展的に続ける必要がある。またホストファミリーは微増傾向にあり、今後も積極的に外国人の受け入れに向けた機運醸成の必要がある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	ホストファミリーの拡大に向け、市民と市民団体主導のボランタリーによってその推進に取り組んでおり、市民・団体の担う部分はますます拡大する。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	別の事業展開があってもよい。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのよう考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	多言語対応の分野について本来であれば、現在すでに、行政が経費を投じてでも積極展開すべき時代が到来していると認識。その意味では新たな事業展開を進める必要がある。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
一次評価	C	多言語による情報提供や、英語活用の取組等、国際化に向け重点的に取り組む必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	行政情報の多言語対応に向け、情報収集し、検討を進める。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	国際化に向けた基本方針を新たに検討していく必要がある。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	国際化に向け、計画的に関係事業を推進し、地域の国際化に向けた機運を高める。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
二次評価	C	行政情報誌多言語版の配布、ホストファミリーの登録はじめ市の国際交流推進施策の取組は進められているが、市の発信する情報は多岐にわたるため、より積極的な今後の展開について検討を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある